



## 県教連の皆様とともに

岩手県教育研究所連盟 会長 岩井 昭

(岩手県立総合教育センター所長)

師走の候、岩手県教育研究所連盟の皆様におかれましては、本年度の事業の推進にご尽力いただいておりますことに心から感謝申し上げます。

県教育研究所連盟は、令和元年の節目に発足63年目を迎えましたが、これまで県内各地の教育研究機関が連携を密にし、教育に関する調査・研究を充実させ、本県教育の推進、向上に寄与することを目的として活動して参りました。

今年度は5月に定期総会と協議会、9月に研修会を開催いたしました。研修会においては、国立政策研究所 教育課程研究センター基礎研究部長 初等中等教育研究部長 猿田 祐嗣 様をお招きし、「資質能力を育む授業改善」のテーマでご講演いただき、新学習指導要領全面実施に向けた子ども達の資質・能力を育む授業改善の具体的方向

性についてご教授いただきました。

来る2月13日、14日には、岩手県教育研究発表会が行われます。今年度は盛岡市、紫波町、花巻市の教育研究所から発表していただくこととなりました。各所の研究成果の発表が、本県教育の充実と発展に繋がりますことを期待しております。加盟機関の皆様のご参加をお待ちしております。

社会の変化が激しく未来の予測が困難な時代の中で、子どもたち一人一人に社会の担い手として必要な資質・能力を確実に育てていくためにも、教育の専門機関としての当連盟の役割は益々重要になってくるものと存じます。連盟相互の情報交換、連携を図りながら、岩手の教育の推進、向上に向けともに力を尽くして参りましょう。どうぞよろしくお願いいたします。

### 令和元年度定期総会の報告

令和元年5月10日(金)、総合教育センターにて、令和元年度岩手県教育研究所連盟定期総会が開催されました。

総会では、昨年度の事業報告並びに決算報告が行われ、今年度の役員案、所員研修会、岩手県教育研究発表会等の事業、予算案が承認されました。

承認いただいた令和元年度の役員は右のとおりです。

会長	岩井 昭	総合教育センター 所長
理事	小山田 秀次	盛岡市教育研究所 所長
	中村 哲	花巻市教育研究所 所長
監事	山火 敏幸	二戸市教育研究所 所長
	吉田 竜二郎	総合教育センター 研修部長
事務局	侘美 淳	紫波町教育研究所 所長
	菅原 文彦	矢巾町教育研究所 所長
	総合教育センター 企画担当	
	佐藤 禎信	主任研修指導主事
	女鹿 芳文	主任研修指導主事
	福岡 耕治	研修指導主事
	岩澤 利治	研修指導主事
	菊池 貴彦	研修指導主事
	古川 麻耶	主事

## ■ 令和元年度研究協議会 ■

今年度の研究協議会では、全体会Ⅰで総合教育センターの今年度の取組を各加盟機関に紹介しました。分科会では、各研究所から事前にとったアンケートを基に3分科会を構成し、それぞれのテーマについて協議しました。全体会Ⅱでは各教育研究所の活動報告及び情報交換を行いました。

### 【 総合教育センターの取組について 】

#### ■ 教育センターの研究について

令和元年度の所員研究は以下の5本です。

- ① コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力の育成を目指す小学校外国語科指導の在り方に関する研究－「CAN-DO リスト」形式の学習到達目標の例と WE-CAN シートの活用を通して－
- ② 幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の具現化に関する研究  
－低学年の発達の特性に応じた指導の工夫・改善とその推進体制作り－
- ③ 高等学校理科における探究の過程を主体的に進める授業の在り方に関する研究  
－科学的課題を解決する「探究マップ」の開発とその活用を通して－
- ④ 中学校技術・家庭科〔技術分野〕における情報活用能力の育成に関する研究  
－ネットワークを利用した双方向性のあるコンテンツのプログラミングの学習を通して－
- ⑤ 早期からの継続した教育支援体制の整備に関する研究  
－小・中・高をつなぐ「引継ぎシート」の開発・試行を通して－

#### ■ 教育センターの研修について・理科教育業務について

研修は、基本研修、特別研修、希望研修等の7種類で構成されています。基本研修の最後には、セルフチェックシートを用いて到達度の確認を行います。理科教育では、「移動センター理科」で、示範授業や観察・実験等を行うなど、授業ですぐ使える研修を行っています。

#### ■ 情報教育業務について

情報モラルや ICT 利活用、専門的な内容の研修を設定しています。所員が県内各地に出向いて行う提案授業、研究授業等（旅費は主催者負担）もあります。

#### ■ 支援相談業務について

教育相談、特別支援教育に関わる全ての研修、研究、支援事業を行います。支援事業では、幼児児童生徒、保護者並びに教職員に対して相談の機会を提供し、具体的な対応や指導の在り方等の援助、地域や学校の実情に即した相談活動を推進しています。

#### ■ 岩手県教育研究発表大会について

令和2年2月13日（木）～14日（金）の2日間開催します。

### 【 分科会について 】

#### 第1分科会 「授業力向上・学力向上」

諸調査における無回答率を下げる対策、プログラミング教育、教科領域の研究会等、教師の授業力向上、児童生徒の学力向上のための各教育研究所の取組について紹介し、協議を行いました。

#### 第2分科会 「不登校・適応指導教室」

各教育研究所が抱える現状と、今年度の取組を紹介しました。適応指導教室と学校、保護者との連携の在り方や、保護者間の情報交換会の取組、出欠席の扱い方を中心に協議を行いました。

#### 第3分科会 「異校種間連携（幼保小中高）」

保小連携、幼保小連携、幼保小中連携、新設教科による小中高連携など多岐にわたる異校種間連携の取組が発表されました。特に、連携を推進するための組織づくりや各校種への働きかけ方について交流を行いました。

■ 令和元年度教育研究所連盟研修会 ■

〔目的〕 新学習指導要領に示された資質・能力を育むための授業改善の方策について、総論や具体例等から学び、各研究所の研究の推進及び研修者の授業改善等に生かす。

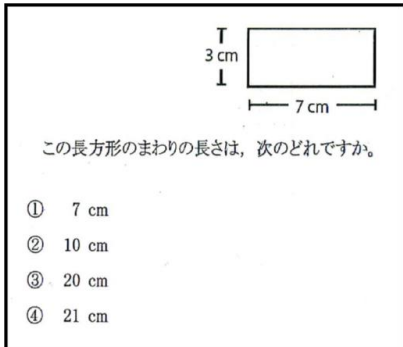
〔日時〕 令和元年 9 月 18 日（水）13:00～15:30

〔演題〕 資質能力を育む授業改善

〔講師〕 文部科学省 国立教育政策研究所

教育課程研究センター基礎研究部長 初等中等教育研究部長 猿田 祐嗣 先生

猿田先生には、子ども達の資質能力を育む授業はどのように構成していけばよいかについて、具体例を通して教えていただきました。

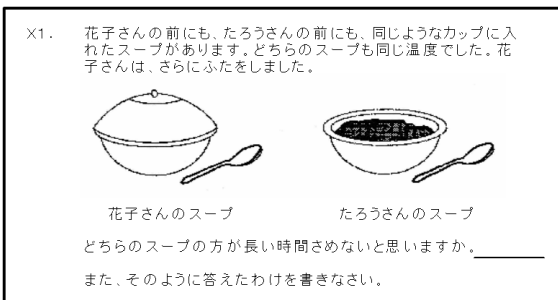


出典) TIMSS 国際数学・理科教育動向調査, IEA 国際教育到達度評価学会, 2007

(1) 求められているのは知識・技能か？

③を選択した子どもは 34%であるのに対し、④を選択した子どもは 54%でした。子ども達は、この調査の前に面積の学習を行っていたことから、すぐ  $3 \times 7$  と答えてしまったのかもしれませんが、この結果から問題を読めていないことがわかります。問題文で、「まわりの長さは」と問い、選択肢の単位は「cm」になっているからです。この問題のねらいは、実は、思考力・判断力です。情報を与えられてすぐのみにし、一部分だけで判断するのではなく、情報全体を読み、

まわりの長さ、単位に着目するなど、必要な情報を抽出できる言語能力を授業の中で育てていく必要があります。



出典) TIMSS 国際数学・理科教育動向調査, IEA 国際教育到達度評価学会, 1995

(2) 求められているのは答えか？

わけとして「蓋の有無」だけを答えた子どもは 36%でした。蓋の有無だけでは不正解であり、「蓋の有無」は根拠となる事実のことです。この間で求められているのは、事実を基にした「理由（仮説）」となります。子ども達は、考える事は出来ても、どこまで書けばよいか分かっていません。「それじゃあ、蓋の中で何がどうなっているの？」

という問いや理由（仮説）を持たせる授業をつくっていくことが求められています。

人間は海の水をそのまま飲むことはしません。その理由を説明しなさい。

出典) TIMSS 国際数学・理科教育動向調査, IEA 国際教育到達度評価学会, 2007

(3) 「問い」が新しい知を生み出す

日本の子どもが記述した理由は、「塩分」57%、「汚染」20%で、両方を記述した子どもは 17%でした。大切なことは、

「塩分はなぜ人間に害なのか」という「新たな問い」です。新しい知識を求めることで問いが生まれ、問いが問いを生み、どんどん創造力が発揮されていく授業を作っていくことが大切です。

子ども達が未来を生き抜くためには、しっかりとした知識・技能を基に、思考力を使って問題を解決する力を身に付けることが必要とされています。その思考力を引き出すには、問いを吟味することが大切です。子どもが“はっ”とする問い、本質に迫る問いを設定し、授業の中で子どもが学ぶ対象に働きかけ、向き合い、情報を読み取る問いとの対話と、仲間との対話を通して、より深い学びにしていくことが求められています。教師は、子どもをより深い学びに向かわせるための支援者なのです。

**■ 令和元年度（第 63 回）岩手県教育研究発表会 ■**

令和 2 年 2 月 13 日（木）～14 日（金）の 2 日間の日程で、岩手県教育研究発表会を開催します。今年度から 3 年間のメインテーマを「新しい時代を拓く子どもたちの主体的な学びの充実を図るカリキュラム・マネジメント」とし、1 年目の今年度は、サブテーマを～教科等横断的な視点に立って育む資質・能力～と設定し、講演会・パネルディスカッションを行います。また各分科会は、実践発表、総合教育センター研究発表等で構成いたします。全体会、分科会の教科・領域等は、下記のとおりです。皆様のご参加をお待ちしております。

	午前受付場所	午 前		午後受付場所	午 後
2 月 13 日 (木)	花巻温泉	【開会行事】 挨拶  基調提案	【全体会】 講演会  パネルディスカ ッション	花巻温泉	【特設分科会 1】 学力向上 【特設分科会 2】 小学校外国語教育
				総合教育 センター	【特設分科会 3】 小学校プログラミング教育 幼児教育／幼小接続
				生涯学習推 進センター	【特設分科会 4】 学校マネジメント／異校種間連携

	午前受付場所	午 前		午後受付場所	午 後
2 月 14 日 (金)	花巻温泉	国語 道徳 算数／数学		花巻温泉	道徳（豊かな心を育む道徳教育シ ンポジウム） 算数／数学
	総合教育 センター	理科 中・高等学校外国語 図画工作／美術 体育／保健体育 家庭／技術・家庭〔家庭分野〕 キャリア教育／総合な学習の時間		総合教育 センター	理科 教育相談 図画工作／美術 音楽 情報教育／技術・家庭〔技術分野〕
	生涯学習推 進センター	社会／地理歴史・公民 いきる・かかわる・そなえる 特別支援教育		生涯学習推 進センター	コミュニティ・スクール いきる・かかわる・そなえる 特別支援教育

※午前と異なる分科会に参加される場合は、受付が必要となります。

また、総合教育センターでは、以下の展示も行います。併せてご覧ください。

- ・ 学校紹介写真展
- ・ 学生科学賞入賞作品展
- ・ 学校公開ポスター展
- ・ 開発教材展（理科 情報教育 特別支援教育 技術・家庭）

**【 総合教育センターをご活用ください 】** <http://www1.iwate-ed.jp/>

要請研修、随時研修、どうぶ研修など様々なニーズに対応しています。また、Web ページでは、教育研究、学習指導案、研修講座関連資料等、各種教育情報を提供していますのでご活用ください。